千五百部

四、系統及色彩

露國ニ余委員会ヲ支持シ及蘇聯親日的傾向ヲ有シ前記「レヤンハイスカヤザリア」ト共ニ上海ニ於ケル二大露字紙ト

五、分布状況

上海在住ロレヤ人ニ讀マル

六、所在地

上海佛租界亜爾倍路二三八弄

七、社長、主筆、主事

発行人　アルタドウコフ

編輯長　P・エルザイツエフ

記者　「サポヂニコフ」「ナガイツエフ」「ブウシウエフ」「カドイレニコフ」

八、経営状況

前記上海「ザリア」ト同様ノ状態ニアリ

九、日支問題ニ対スル活動

我國ニ対シテ好意的記事ヲ掲ゲ

第九回　ノーボスチイドニヤ

支那名「俄文日報」

一、沿革

一九三三年「V.A.チリーキン」ノ創刊セル「カペイカ」ヲ改題セルモノニシテ「カペイカ」ガ財政困難ノ為メ経営困難ニ陥リタルヲ以テ昭和九年十月十五日之ヲ廃刊スルト共ニ現名ニ改メタルモノナリ、

二、資本ノ
不詳
三、発行部数
五百部
四、系統及色彩
三流ノ曝露新聞ナリ、
五、分布状況
上海在住露人ヲ主タル讀者トス、

六、所在地
上海佛租界霞飛路七八五號
七、社長、主筆、主事
編輯長 V. A. チリーキン
八、経営状況
経営困難ヲ極ム
九、日支問題ニ対スル活動
特記スベキモノナシ

第十回　露英字紙「ノーヴイ・ミール」
（露名）「ザ・ニュー・ワールド」（英
名）支那名「新世界報」

一、沿革

昭和九年四月十日創刊ノ親米親蘇聯的
傾向ヲ有スル露英字日刊紙ニシテ編輯
長「C、E コックス」ハ米国人記者「ゼフイ
ロフ」ハ元東支鉄道顧問商業部上海出張

所長タリシモノニシテ駐華ソビエット
大使館ノ補助アリト傳ヘラル

二、資本

不詳

三、発行部数

三百部

四、系統及色彩

親米親蘇特ニ親蘇傾向著シ

五、分布状況

上海在住一部露人ニ讀マルノミ

六、所在地

上海愛多亜路

七、社長、主筆、主事

編輯長 C.E コッククス

記者 N.ゼフイロフ（蘇聯人）

仝 A.デニソフ（ク）

㈣、経営状況

営業トンテハ勿論問題外ニシテ「ソビエツト」ノ補助金ニ依リテ維持スルモノヽ如シ

九、日支問題ニ対スル活動

我ニ不利ナル記事ヲ掲グ

第四節　新聞政策ノ功過並ニ将来ノ方針

第一項　支那ニ於ケル邦字新聞ノ対外的効果

上海ハ支那ニ於ケル文化ノ中枢ナルヲ以テ中国人智識階級中ニモ日本文ヲ解スル者相當アリ殊ニ近年ニ於ケル中国ノ外国文化ノ吸收輸入ハ直接政米ノ刊行物ニヨ

ル・モノアレドモ我國出版物ヲ介スルモノ最
モ多ク政治方面ニ於ケル諸制度其ノ各般
ノ施設ニ亘リ日本文化ノ飜譯的臭味ヲ
多分ニ帶ベルハ此ノ消息ヲ物語ルニ
足ルモノニシテ加之日本高品ノ支那ニ於ケ
ル異常ナル進出ハ之ニ關係ヲ有スル中國高
人ヲシテ自然ニ日本語研究ノ欲求ヲ起サシ
ム等ノ諸因ニヨリ最近上海ニ於ケル中國人

ノ日本語研究熱ハ頗ニ旺盛トナルニ至
レリ(一)流中國新聞申報經營ノ夜學語學
校ニハ千五百名ノ日本語學習生アル外
日本語教授私塾簇出シ日本語研究用
書籍雜誌ノ賣行相當多シト如此情勢
下ニ在ル地ニ於ケル邦字新聞ハ將來中
國人方面讀者ノ開拓ニ幾分ノ可能ヲ有
スレトモ永キ歷史ト深キ根底ヲ有スル

英語ノ広範囲ニ亘ル普遍性ト浸透性ニハ尚遥ニ及ハス従ツテ英字紙ノ如ク中国人讀者ノ多クヲ獲得スル能ハス只僅ニ特種関係ヲ有スル一部中国人ニ讀マルヽニ過キサル現況ニシテ之カ原因トシテハ邦字紙ガ在留邦人ノミヲ目標ニ置キ中国人讀者獲得上必要ナル考慮ヲ拂ハス且ツ内容ノ平凡貧弱ナルニ因ルモノナシトセサルモ畢竟其ノ主因ハ支那ニ於ケル日本語ノ普及力甚タ微弱ナルニ皈セサルヲ得ス邦語ヲ解スル者比較的多キ上海ニ於テスラ如此状態ナルヲ以テ其ノ他ノ中国各地ニ於ケル邦字紙ハ其ノ地在留邦人ニ讀マルヽノ外対外的存在ノ餘地無キハ自明ノ理ナルガ故ニ邦字紙ヲ以テシテ対支対外的効果ヲ擧ケントス

ル八恰モ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルニ等シク
到底望ヲ嗚シ得ヘクモアラス、結局中國
ニ於ケル対外的活動ハ漢字紙又ハ英字紙
ヲ以テスルノ外無カルヘク殊ニ主タル目標
カ中國人大衆ニ在ル以上彼等ノ言語ヲ以
テスル漢字紙ノ最モ適當ナルハ論ナキ処
ニシテ特殊事情ヲ有スル地ヘ例ヘハ香港ノ
ニ於テハ英字紙ヲ以テスルモ亦一策ナル

第二項　支那ニ於ケル邦人及外人経営
新聞ノ効用

今ヤ中國ハ世界列強ノ経済政治上ニ於ケル
争覇ノ焦点ニシテ就中日英米三強國ノ
利害衝突地点トシテ日々ニ変転極マリ
無キ渦巻ノ波紋ヲ画キ競争ノ剔甚ナル
筆紙ノヨク盡シ難キモノアルハ今更贅
言ヲ要セス其ノ間ニ処スル邦人及外人経

営新聞ノ常ニ重要使命ハ在留自国
人ニ対スル報道機関タルノ外対外的活
動特ニ対支活動ニ重点ヲ置クモノナル
コト言ヲ俟タス各々自国政策ノ擁護
宣傳ニ努メ自国勢力ノ扶殖ニ腐心レッ、
アリテ列強ノ競爭劇烈ナル結果乱レ
飛ブ悪意又ハ誤解ニ基ク「デマ」ヲ是
正糺彈シ或ハ自国ニ対スル他国ノ讒誣

中傷ヲ排撃シ時ニ中国政府ノ非為奸策ヲ
暴露シ其ノ無道横暴ヲ牽制スル等ハ其
効用ノ大ナルモノナルガ此ノ外普通文
明国内ニ於ケル外国新聞ハ當該在留自
国民ニ対スル報道ヲ主タル目的トシ兼
ネテ自国民ノ輿論ヲ代表スルヲ普通ト
スルモ支那ニ於テハ自国人新聞ニ対スル
言論抑圧極端ニシテ凡ソ政府又ハ支配

實權者ニ不利ナル記事ハ勿論此少ナリ
トモ反政府的反支配實權者的色彩ヲ有
スル記事論評ハ一切嚴禁シテ報道セシメ
ス若シ之ニ反セシカ嚴罰忽チ下ルヲ以
テ中國新聞ハ正鵠ナル報道ヲ為スノ自由
ヲ有セス殊ニ近時「プ」
テ行ハル、所謂「文化統制」ノ結果ハ益々此
ノ傾向ヲ顯著ナラシメツ、アリ從ツテ一

般民衆ハ中國紙ニ依リテハ正確ナル國内
事情スラモ知リ能ハサルカ為メ之ヲ治
外法權ヲ有スルコトニ因リ直接中國政府
並ニ地方實權者ノ拘束ヲ受ケス比較的
自由ナル立場ニ於テ報道スル諸外國人
經營新聞ニ求メントスル傾向アリ（事変
突發セバ外國人經營新聞ヲ購讀スル支那
人激增スルハ從來例

ニテハ華北事件ノ真相報道ヲ許サヽリシ
為メ中國民衆ハ之ヲ外人経営新聞ニ依リ
テ知ルコトニ努メ居タル實例アリ即チ
中國民衆ハ自國新聞ヲ以テ國内事情ヲ
モ知悉スルヲ得サル変態且ツ不幸ナル
事情ニ在ルヲ以テ斯ル場合ニ於ケル外
國人経営新聞ハ中國新聞トシテノ任務ヲ
代位スル効用ヲ有スル譯ナルガ如此情勢
ニ処シテ正確迅速且ツ好意ヲ以テスル報道
ハ中國民衆ノ信頼ヲ繋キテ讀者ヲ増加
シ宇固メル基礎ヲ築キ延テハ不知不識
ノ間ニ支那民衆ノ好感ヲ招来シ自國勢力ノ
侵潤ニ資スル処極メテ大ナルモノアリ
後来督府ノ福州厦門ニ於ケル新聞経営
ヲ見ルニ無用ノ長物視スル者アルカ如キ
モ此ハ大勢ヲ知ラサル一知半解ノ徒カ或

ハ恰モ商人ノ如ク何事モ事業利潤ヲ金銭的ニ計算セサレハ止マサル近眼者流ノ見解ト云フヘシ

第三項　在支邦人新聞ノ過誤

以上ノ如ク在支邦人及外人経営新聞存在ノ特長並ニ効用償値ハ在留民ニ対スル報道ヲ専ラ目的トスルモノヲ除キ対外的活動ヲ目標トスルモノニアリテハ自国ノ利益ノ擁護伸張ヲ究局ノ目的トスルモノナルカ従来在支邦人経営新聞カ他ノ外国新聞ニ比シ効果ヲ挙ケ得サルハ民国改隷以来排

日事件頻発シ殊ニ満洲事変上海事変ノ突
発ハ支那民衆ニ極度ノ悪感ヲ与ヘタルコト
ヲ主因トスレトモ尚組織経営等ニ於ケル過
誤ニ因ルモノトナシトセス即チ

一、情実其ノ他ノ事情ニ因リ支那事情ニ対
スル認識ヲ缺キ新聞経営ニ適當ナラサ
ル人物ヲ経営首脳ニ用ヒタル嫌アリ甚
シキハ自己ノ主宰経営スル新聞ノ使命
ヲモ顧慮セスシテ徒ニ自己収入ノ多カラ
ンコトノミヲ念トシタルニアラサルカト
思ハル、程ノ人物ヲモ任用シタルコト
アリテ経営首脳人物ニ適正ヲ得サリシ
傾向アルコト

二、経営首脳者カ其ノ地位ヲ背景トシテ支
那政界ノ裏面的活動ニ深入シ自然自己
ノ與スル一党一派ノ擁護ニ偏セシコトアリ

三、主筆其ノ他編輯要位ニ適當ナル中國人ヲ
擧ケ比較的自由ニ其ノ才能ヲ振ハシムル
雅量アルニ乏シク且ツ此等記者ノ指導ヲ
宜シキヲ得サルコト

四、常ニ日本的色彩餘リニ露骨ニ過キ中國
人ヲシテ却テ反感ヲ抱カシムルコト

五、支那ノ政治其ノ他ニ關シ餘リニ直言
直筆スルノ結果却テ中國民衆ヲシ
テ支那ニ惡罵ヲ加フルモノナリトシ
テ不必要ナル惡感ヲ買フコト

六、日名支民族融和ニ對スル用意不充分
ナルコト

七、我國事情ノ紹介ニ偏シ中國内各地ノ
「ニュース」ニ乏シキコト

八、政治的記事許論ヲ偏重シ經濟其ノ
他一般事情ニ關スル記事ノ比較的等

閑視サルヘコト

九、支那民衆ニ親切ナルベキコトノ用意ニ乏シキコト

十、資料豊富ナラス報道精彩ヲ欠ク

十一、不必要ニ中國官憲ノ内情ヲ暴露スル為其ノ憤怒ヲ買ヒ新聞ノ販路ニ支障妨害ヲ蒙ルコト

十二、積極的活動ニ対スル資金ノ支出ヲ惜ムコト

等ハ其ノ重ナルモノナリ。

第四項　将来ノ方針

在支外國人経営新聞ハ前記ノ如キ効用ヲ有スルヲ以テ支那ノ何地ニ於テモ其ノ必要ヲ認メラレ殊ニ我台湾ト最モ密接ナル関係ヲ有スル福建省ハ勿論福建以南各地ニ対シテモ積極方針

ヲ執ルヘキハ現時ノ支那ヲ中心トスル國
際情勢ニ鑑ムルモ最モ必要ニシテ我國
ノ北進政策漸ク一階梯ニ達セル今日此
ノ秋ニ當リ南進澎張ハ同時併行サル
ヘキモノナルカ故ニ之カ先駆前衛タル新
聞戦線ノ整備拡大ノ緊要ナルヤ論無
シ、而シテ其ノ経営ニ當リテハ前記過誤ノ
項ニ於テ挙ケタル各項ハ直ニ以テ改正

サルヘキ要項ニシテ新聞経営ノ目的タ
ルヤ究局スル処我國ノ利益進展ニアル
モ其ノ経営方法トシテハ穏健確實安固
ナル手段ニ出テ最少ノ犠牲ヲ以テ最大
ノ効果ヲ挙クルヲ旨トセサルヘカラス故
ニ我國ノ利益擁護ニ急ナルノ餘リ矯激ニ
失スル行動ハ之ヲ嚴ニ慎ムヲ得策トスヘ
ク又前述ノ如ク中國人経営新聞ガ新聞ト

レテ充分ナル機能ヲ発揮シ得サルハ正ニ
我ノ乗スヘキ点ニシテ之カ為ニハ我国其ノ
他各国ニ「ニュース」ハ勿論更ニ一歩ヲ進メテ支
那各地ヨリ広範囲ナル「ニュース」資料ヲ蒐
集シ得ル方策ヲ講シ政治、経済、社会其ノ
他萬般ニ亘リ真ニ中国民衆ノ日常生活
上欠クヘカラサル好伴侶タラシメ、読者ノ
拡大ヲ図リ不知不識ノ間ニ終局ノ目的ヲ

達スルノ方途ニヨルヘク、現在ノ福州、厦門
両地ノ外汕頭、広東、香港等ノ各地ニモ適
當ナル漢字新聞又ハ英字新聞ヲ新設
シ既存及新設新聞ハ相互連絡シテ「ニュ
ース」ヲ交換スルノ外其ノ他ノ中国各地
ヨリノ通信ヲ集ムルヲ得ルコト、セバ相
當ノ効果ヲ収メ得ヘク之カ為メニハ費
用ノ増大ヲ免レサルモ大利ノ為メニハ之

ヲ惜ムベキニアラス斯ク七八近時発達
セル台湾産業ノ対岸進歩上ノ一助トモナ
リ我國ノ南支ニ於ケル政治的経済的発展
ニ資スル処大ナルモノアルヲ期待シ得ヘシ
ト思料ス。

第二章　福州
第一節　漢字新聞
第一項　邦人経営新聞
第一目　閩報

一、沿革

明治三十一年十二月前島眞が當時福州唯一ノ新聞福報ヲ買収シ閩報ト改名一週一回発行シ明治三十五年ニ印刷機ヲ購入シ

テ一週三回発行シ来リタルガ大正四年前
島真死亡後赤石定蔵ニヨリ経営サレ大
正六年ニ至リ財団法人善隣協会ノ経営
ニナリ初代館長山中寛太郎次テ鎌田
正威、中曽根武多ヲ経テ現館長松永栄ニ
至ル、
此ノ間山中ハ大正十三年頃輪轉機ヲ購入
シ亦現閩報ノ敷地ヲモ購入シテ閩報ノ

発展ヲ画策シ鎌田正威先ツ煉瓦二階建
ノ現営業編輯部ヲ建築シ中曽根武多
銅版部ヲ設ケ松永栄現バラツク建工場
ヲ新築シ今日ニ及フ

資本

敷地、建築物、活字其ノ他、約五萬元
台湾總督府ヨリ善隣協会ヲ経テ補助金
一千五百円

新聞代五百元
広告代二百元
印刷物代一百元

三、発行部数

一千八百余

大正十四年頃五千部ヲ発行シ時ニ増減アルモ三千乃至五千ノ間ヲ上下シ居タルガ民國二十三年一月十五、六日頃八千部ヲ発行シテヨリ漸減一千八百ニ至レリ

四、系統及色彩

台湾總督府ノ経営スルモノ

五、分布状況

市内各機関民衆各層ニ渉リ讀者ヲ有スルモ昔日ノ如キ信用十ン

六、所在地

市内一千数百、市外百五十部台湾ニ百部

福州南台泛舩浦太平巷

七、社長、主筆、主事

館長　松永　栄

主筆　林　宝樹

八、経営状況

台湾總督府ヨリノ補助金一千五百円ヲ

余ノ縄トシテ経営シ来レルガ銀高ニテ

相切ニヨル損失ト親日陳儀政権ニヨリ閩

報ニ頼ラストモ大体公平ナル他新聞紙ノ

記事ニテ状勢ヲ知リ得ルト閩報ノ貧弱

ナル内容トニヨリ讀者減シテ経営ハ非

常ニ困難ナル模様

九、日支問題ニ対スル活動

日本ノ正當ナル主張ヲ報道シ日支親善

ニ努メツヽアルモ漢字体ノ拙劣等ニヨ

リ往々中國人ノ反感ヲ買ヒ反対結果ヲ

招クコトナキニシモアラス

第二項　支那人経営新聞

第一目　福建民報

一、沿革

本報ハ國民党宣傳紙ニシテ省党部ヲ通シ中央党部ノ支配下ニアリ従テ社長其ノ他ノ人選任免ハ中央党部ノ命ニヨルモノ、民國十八年ニ創立サレ初メ民國日報ト稱シタルが民國二十三年中

央党部ノ議決ニヨリ民報ト改メ各省毎
ニ省名ヲ冠スルコト、ナレリ、
福建民報ト稱ス

二、資本

約一万五千元、此ノ外中央党部ヨリノ補助
金月額四千元中央党部ノ余ニヨル省政府
財政廳ヨリノ補助金一千二百元之ニ新聞
購讀料約一千六、七百元、広告收入千元余、
月收約八千元
最モ財政廳ヨリノ補助金、党部補助金等
ハ社長ノ勢力手腕ニヨリ時ニ増減アリ
現在ハ中央党部補助金減額サレ財政廳ヨ
リ月約三千元ノ補助ヲ受ケツヽアルモノ
ノ如シ

三、発行部数

創立當時一千余部ナリシガ数年前五號活

字ニ改メテヨリ漸次増加シ現在三千余部

四、系統及色彩

党部ノ宣傳機関トシテ創立サレタルモノナレバ国民党ノ指導精神ヲ奉スルハ勿論ナルモ省政府ヨリ経費ノ補助ヲ受ケル関係上純然タル党部的立場ノミヲ持スル能ハス又政府ノ方針ニモ支配サレ党政両機関ノ方針ヲ反映ス、

五、分布状況

党政機関紙タルヨリ各官公署学校其ノ他ノ機関団体ヲ主トシ現在福州市ニ於ケル第一位ノ新聞トシテ一般市民ノ各層ニ渉リ讀者ヲ有ス

六、所在地

地区的ニハ閩侯縣外約一千部福建省外ヘハ数百部ノ見當

福州市虎節河漑（城内）
最初党部内次デ東街三山館ニ更ニ教育協
会内再ビ党部内民図ニ十三年現在ノ場所ニ
移転ス、目下閩報ノ輪転機ヲ買受ケ握付工
事中ナルガ近日後ユノ曉ニハ福州市總督
口ニ移転スルモノ

七、社長、主筆、主事
社長兼主筆　刘正華
主筆　高拝石

八、経営状況
党政両機関ノ経営ニ係リ當市発行新聞
中最有力ナルモノトシテ順調ニ経営ヲ
續ケ広告ノ如キモ月收千元余ニ及ブハ
前言ノ通リ
近ク輪転機握付ト共ニ購讀料ノ値下ヲ断
行スルヤニテ讀者ノ増加ヲ豫想サルヘ現在

月一元ノ

九、日支問題ニ対スル活動

党新機関紙トシテ曽テハ猛烈ナル排日運動ノ指導的立場ニアリタルモ現陳儀政権ノ親日的（表面的ナリト雖モ）態度ニ気兼シテ排日態度多少緩和サレタルモノト雖モ事毎排日気分ヲ煽ルガ如キ傾向アリ

第二目　南方日報

一、沿革

省政府保安所憲兵第四団等ノ共同出資ニヨリ人民革命政府當時ノ國光日報ノ機械活字ヲ没収レタルモノヲ利用シテ民國二十三年春ニ創立サレタルモノ社長其他ハ省政府ニヨリ任免サルヽモノニシテ前記各機関ノ機関紙タリ

二、資本

省政府保安処憲兵第四団ヨリ醵出シメ
ル一千元ヲ資本トシ（没収品）ヲ創立サレ現在毎月
省政府（陳儀名）八百元
保安処　四百元
憲兵第四団　三百元
ノ補助アリ広告代五百元新聞代其ノ他ヲ
以テ維持シ居レリ

三、発行部数

創立當時三百余部、現在約一千部

四、系統及色彩

経営者ガ政軍両機関ナルヨリ政事、軍事ノ
實権ヲ握ル現蔣介石政権ノ指導精神ヲ奉
スルハ勿論ナルガ本報中心人物ハ益衣社
系ノ在福重要人物ナルヨリ益々此ノ傾向ノ

着シキヲ視ル、

五、分布状況

官公署、學校其ノ他ノ機関団体ヲ初メト
シ智識階級市民層ニ讀者ヲ有ス
縣外配布ハ僅少ナリ

六、所在地

福州市道山路旧建設廳路（城内）

七、社長、主筆、主事

社長兼主筆　呉世後
主筆　楊華

八、経営状況

所謂士族ノ商法的感アリ
遊衣社的指導精神ニ基キ積突的猛進アマリニ色彩明瞭ナルヨリ経営ハ困難乱脈ナリト云フ

九、日支問題ニ関スル活動

藍衣社ノ指示ニ基クモノ謂フ迄モナク排日打倒日本ヲ標語トスルモノナレバ猛烈ナル排日紙、今日ニ於ケル最モ排日的色彩アルモノ、

第三目　求是報

一、沿革

本報ハ現在福州ニ於ケル支那人経営新聞中最古ノ歴史ヲ有スルモノ、民國九年ノ創立ニシテ民営新聞トシテ同業ノ全部ガ倒閉シタルニモ係ラズ本報独リ経営今日ニ及ビタルモノ、最初李睡仙、王醒才等ニヨリ創立サレ今

日ニ持續セルモノナルガ今ヤ其ノ名ヲ
留ムルニ過キス

二、
資本
約一千元

三、
商会其ノ他ノ商業団体ノ補助六百元
新聞、広告、代計三百元
（印刷ハ他ニ請負ハスルモノ）

三、
発行部数
四百部内外

四、
系統及色彩

商会、國貨会、商人団体ノ後援ニヨル新
聞ナルニヨリ商業新聞的存在ニシテ
時々御都合主義的ニ時ノ政権ニ迎
合シツヽアリ、本報独得ノ指導精神ト
ルモノナシ是等ガ政変幾度他紙ガ停
刊ノ憂目ヲ見ルヲ他処ニ今日迄餘命ヲ

継キ得タル原因ナルヘシ

五、分布状況

市内高人ヲ讀者トス

六、所在地

南台大廟山塔仔兜

七、社長、主筆、主事

陳公規一人ニテ總テ兼務ス

八、経営状況

各商業団体ノ補助及僅少ノ新聞收入ニヨル個人経営ノ感アリ真ニ倒閉セントシツヽアリ、

九、日支問題ニ対スル活動

時ノ政権ニ媚ビ民衆ニ迎合シテ自ラノ主義主張ナク取リ立テヽ云フコトナシ

第四目　東方日報

近日発刊ノ豫定、陳儀ノ甥ト稱スルモノ

計画中

十六

第二節　邦文新聞

第三節　新聞政策ノ功過並ニ將來ノ方針

過去ニ於ケル國報ノ經營ガ在留邦人唯一ノ言論機関トシテ支那側ノ暴論ニ対シ正義ノ叫ビヲ續ケ来リ帝最モ公平ナルニュースノ報道ヲナス新聞トシテ常ニ事實ヲ枉曲シテ時ニ赤党部又ハ蔣介石政権ノ擁護ノメメニハ全部無根ノ事實ヲ相造シテ敢テ報道シテ恥チザル支那新

聞ノ報道ニ民衆ヲ誤ラシメザリシノミ
ナラズ之アルガ為メニ支那紙自ラモ閩報
ヲ日本ノ支那攪乱ノ武器ナリ事實無根
只管日本側宣傳ノタメ暴論ナリトシテ
攻撃シ乍ラモ餘リニ甚シキ出鱈目記事
ヲ掲クルニ躊躇セシメ来リタル或ハ亦支那
文化開発ニ貢献シタル等々ノ事實ハ最近
マデ閩報ガ五千内外ノ発行部数ヲ有シ當

市発行ノ新聞紙中断然発行部数ノ第一
位ニアリタル事實ニ徴スルモ明カナル処
ナリ、然レ共亦他ノ一面ニ於テハ往々必要以
上ニ迄支那内政ニ干渉スルガ如キ記事ヲ
掲ケテ支那政府並ニ民衆ノ反感ヲ買ヒ或
ハ自ラ心付カサルモ漢文ニ対スル理解浅
キタメニ不知不識ノ間支那側ノ感情ヲ害
スルガ如キ記事ヲ掲ケツヽ等々逆ニ日支

親善ヲ阻害スルガ如キ結果ヲ招来スルコト亦一再ニ留マラズ殊ニ之ヲ以テ日本ノ支那侵略ノ具ニ供スル為メノ機関ナルガ如キ感ヲ與フルハ最モ當事者ノ注意セサル可カラサル処ナリトス、要スルニ新聞経営ノ功過ハ経営ノ任ニ當ル者ノ如何ニヨリテ決セラルヽモノニシテ将来新聞経営ノ任ニ當ル人ノ責任ヤ重且ツ大ナル者アルヲ思ハレム此ノ意味ニ於テ将来新聞経営ノ當事者ハ人格高クシテ支那ヲ理解シ漢文ヲ草セザル迄モ漢文ヲ解スルコト深ク確固タル信念ヲ有シ身ヲ以テ事ニ當リ一時ノ小成ニ安セズ一死東洋平和ノ為メ名ヲ人類平和ノ為メニ捧ゲルノ士タルヲ要スルモノト信ス、

自ラノ栄達ヲ顧ミス或ハ責名ノ為メニ或ハ私財富積ノ為メニ国論ヲ喰物ニスルガ如キコトア

ランカ延テハ乱脈不統一ナル新聞面ハ支那官民ヲシテ対日反感ヲ生セシメ日支親善ヲ阻害シ國家ヲ毒スル之ヨリ甚ダシキハナシ尚将来新聞記事ハ文化開発ト云フガ如キニ重点ヲ置キ専ラ民衆ノ啓蒙ニ力ヲ注キ他面正確迅速ナルニユースヲ掲ケ以テ彼等ノ日本ノ支那侵略ノタメノ新聞経営ナルカノ如キ誤解ヲ一掃スルノ要アル可ク只彼等ノ誣

ヒンガタメノ宣伝ニ対シテハ飽ク迄モ正義ノ筆陣ヲ張リ堂々ノ論戦ヲ敢テ辞セスト虽モ其ノ間自ラ教ユルノ態度ヲ失墜セサルコトコソ望マシキ次第デアル、

更ニ経営ノ如キモ経費不足ニテ手モ足モ出ザルガ如キ窮状ニ放置スルコトナク新聞経営ヲ継續スルモノトセバ他紙ニ劣ラサル新聞ヲ発行スルニ必要止ムヲ得サル最低限度ノ経費

ハ之ヲ支出スルニ躊躇スヘキニ非ザルモノト
思料ス時ニ為替相場ノ開キアリ支那政府
ノ弾圧、民衆ノ不買同盟等ヲモ覚悟シテノ
経営ニハ必要不可欠ノ最少限度ノ支出ハ止
ムヲ得ザルモノ、文化ノ程度低キ支那ニ於テ
ハ風説ノ発行頻数ガ断然他紙ヲ圧シ来リタ
ルモ購読料ノ低廉ナリシ事實ヲ看過出来ズ
時ニ無料配布ヲモ辞セザル決心ヲ以テコソ新
聞経営ノ効果ヲ収メ得ルモノト信セラル、

第三章　廈門

第一節　漢字新聞

第一項　邦人経営新聞

第一目　全閩新日報

一、沿革

全閩新日報ハ明治四十年八月台湾人林景仁外九名ノ合資ヲ以テ創刊シ台湾人江保生之レカ社長タリ、大正八年遂ニ経

営難ニ陥リ善隣協会ハ本来ノ使命
遂行ノ機関トシ補助ヲ支給シ厦門ノ紳
士林爾嘉ヲ社長トシ、江保生ヲ顧問ト
シ紙面ト内容ニ多少ノ刷新改善ヲ加
ヘ尚経費不足ノ点ハ林爾嘉之ヲ負担
シ来レリ、
大正十一年二月ニ至リ宮川次郎主筆ト
ナリ経営其ノ他一切ノ事務ニ當リ相當
ノ成績ヲ挙ケ得タルモ大正十三年秋辞
職シ
台湾人謝竜潤（明大専門部出身）主幹ト
シテ就任シ活字及機械等ノ購入整備
ト共ニ内容改善ヲ計ル等相當声價ヲ
昂メタルモ昭和三年一月解職セラル
依テ台湾總督府厦門派遣員太田直
作ハ主幹代理ヲ委嘱セラレ

昭和四年四月東大出身台湾人文学士林
履信副社長トシテ来任セルモ全職員
ノ罷業反対ニ遭ヒ就任スルニ至ラサリキ、
昭和四年七月台南新報記者田中均社長
トシテ来任シ昭和九年七月辞職セリ、
依テ督府顧問派遣員澤重信ガ社長
代理ヲ委嘱セラレ現在ニ至ル、
而シテ本紙創刊存続ノ使命ハ善隣会

ノ趣旨ニ則リ日支両国ノ親善融和ノ實
ヲ挙クルメノ機関使命ヲ負フモノニ
シテ創刊以来両国間ノ時事時局問題
関係ト経営関係等ヨリ其ノ紙面時ニ八
二頁或ハ四頁或ハ六頁ト増減シツヽ現
在ハ八頁紙面ト十行部数ハ最少時ハ約四百部位ノ場合ア
リ最多時トシテハ昭和八年末ノ人民

革命政府成立ヨリ倒壊ニ至ル約五十日間ノ政変時ニ一日ニ三千四百餘部ノ発行部数ニ達セルコト数日間アリシヲ全勢時トシ其ノ後激減シ昭和九年六月ニハ四百五十部位ト十リメルモ最近稍々声勢ヲ挽シ現在一千部余ニ達ス、

尚本紙ハ在原新聞トシテ日本系ナルコト、創刊歴史ノ最古キメルコトハ本紙唯ノ特長メルト同時ニ報道記事信用ノ厚キコトモ亦他紙ノ追従ヲ許サヽルモノアリ。

二、資本

約二萬弗位

内譯、土地建物見積　五、〇〇〇弗

機械活字見積　二、六〇〇弗

什器等見積　五〇〇弗

其ノ他未収金及預金約二、五〇〇弗

三、発行部数

一〇六〇部（六月二十四日ノ発行部数）

四、系統及色彩

系統純日本系、色彩ナキモ督府當局ノ対南支政策方針ニ則ルノ外現地出先日本官憲ノ方針政策ヲ考慮酌酌シツヽ創弁ス、

五、分布状況

厦門七四四部、泉州属一〇部

漳州属九〇部、台湾一九三部

其ノ他 南洋、広東、東京、上海、満洲、漢口、二三部

六、所在地

厦門市和鳳街三六號

註、新聞社ノ場所トシテハ甚々不適當ナ所トス

七、社長、主筆、主事

社長代理 澤重信（督府派遣員）

主筆　李　慶紅（台湾公会議員）

営業主任　澤　重信

註　将来営業主任ハ現在電報係兼会計係ヲ為ス語通且頭脳モ明晰ト認ムル高桑幸吉ヲシテ之ニ當ラシムル方針ヲ有ス

八、経営状況

他社ニ比シ職員数約二割方少キモ先ツ人数ハ之レヲ以テ足リルモ、手腕アリ人材トシテ満足シ得ル人物ノ少キコトガ海外ニ経営スル機関紙ノ盛衰ニ関スル処頗ル大ニシテ此ノ点甚タ遺憾トス

他紙ト同様厦門トシテ未曽有ノ不景気ハ本紙経営上ニ一大打撃タルコト免レ難タ殊ニ本紙既往ノ補助関係ヨリセバ為替関係ヨリ大打撃ヲ蒙リ居ルカ

対外的関係ハ支那側各機関、社団及同業
ノ各支那紙トノ関係ハ他国領土ニ在ル外
紙トハ主トシテ融和ヲ本旨トシテ体面、威信ヲ
失セサル限リ合流合作ヲナスヘシトシ
其ノ實際接触関係ハ漸次良好トナリ
ツヽアルモノト認メラレ此ノ種関係ノ產
生ハ本紙創刊以来始メテト言フモ過言ニ非
ラスト信ス、殊ニ革命以来排外思想深ク
注入セラレ居ル當今ニ於テ然リ、而シ
テ対内外関係裡ニ営業状況ヲ検討ス
ルニ社ノ財政ハ收支共ニ一大膨脹ヲ来シ
居ルコト一ヶ年以前ノソレトハ比較ニナ
ラサル程ノ大差ヲ発見シ得ル力、本市各
界トモ頗ル好感ヲ寄スルアリ、
以上ノ如ク全面的ニ社ノ存在ガ好感裡ニ
在ルコトハ経営上好適ニシテ広告ハ各支

人ノ別ナク申込ミアリ讀者ニシテモ紙
面、記事ノ刷新充實ト共ニ漸増ノ傾向ヲ
示シ居リ、殊ニ最近奥地漳州ニ取次店ノ
設置ハ少部数ナカラモ讀者ノ獲得ト
十リ居ルモノナルガ將来出来得ル限リ
各方面ニ進出ノ方針ヲ有ス、
而シテ営業收支ノ関係ハ依然善隣協会
ノ補助ヲ仰ク ニ非ラサレハ自力ヲ以テ立

千行カサル状態ニ在リ、尚現状ヲ更ニ強
化伸展ヲ期セントセハ相當ノ投資ヲ
必要トス然ラサレハ徐々ノ伸展ヲ見ル
トシテモ急速ノ発展ハ至難ナルヘシ、
次ニ編輯要領ハ使命関係ノ次第モアルカ
華僑ノ如ク自由放任的取扱ヲ執ラス、又
江声報ノ如ク策謀ニ出テス両者ノ中間ニ
在ルモノト信スルカ現在各紙中記事ノ威力

威権ニ於テ全国紙ヲ次テ第一位トスヘク其ノ記事ノ効果的ナルコトハ他紙ノ及ハサル処タリ

何レニスルモ本紙ノ現在ハ営業ニシテモ或ハ編輯ニシテモ対外大衆的ニ感情上何ノ支障モナク故障ナキモノナルカ現状ヲ以テ足レリトナス能ハサルヘク営業編輯トモ尚ホ多クノ改善刷新ヲ要スル点アルヘク故ニ尚

九、

ホ相當努力ヲ要スルモノアリ、

日支問題ニ対スル活動

日支問題ニ対シテハ勿論日本新聞タルノ立場ヨリ之レヲ緩和厳搶梅シテ報道スルニ努メ電報ニユースハ同業ノ華僑報ヨシテ相趨ヲ打タスヘク之レニ供給シ地方記事ニ対シテハ率先抗争ノ先頭ニ立ツコトヲ成ルヘク避ケ其ノ問題性質ヲ

考研ノ上或ハ支那紙ニ資料トシテ供給シ発表セシメタル後之レニ追従シ或ハ同時ニ発表等慎重考慮シ目的ハ問題ニ対シ最善ノ好果ヲ收ムルヲ（國家トシテ）期セムトスルニ在リ、此ノ辺一面國策遂行上ノタメ新聞トシテハ犠牲トナル場合ナシトセサルアリト虽モ全閩紙本来ノ使命上當然斯ルアルヘキナリト信セラル、

第二項　支那人経営新聞

第一目　江声報

一、沿革

民國五年厦門學界ノ人周彬川ナル者ガ賛成同志数名ト謀リ厦門ノ別地名「鷺江」ノ声トノ意味合ヨリ江声報ト命名題號トシテ発行スルニ至リ民國十三年ニ至レルガ

當時南福建ニ於ケル民軍領首ノ第一
人者トシテ勢力ヲ有スル泉州人許卓
然カ同紙ヲ買收シ之レカ經營ヲ為シ民
軍有力ノ輩下等ヨリノ支持ヲ殊ニ泰望
山等ハ同紙經營ニ貢献スル処大ナリシ
為漸次発展ヲ見ルニ至レルガ
許卓然ハ遂ニ暗殺セラルルニ至リタルヲ
メ其ノ甥ニ當ル許栄智之レニ代リ經營
シ数年ヲ經テ今日ニ至ル、
満洲事変突発以来同紙ノ編輯等ニ文
人閑士トシテ寢食ヲ忘レ報道使命ニ
画期的大活躍ヲナシタルヲ一面報道
宣伝策略ト要領其ノ當ヲ得タルヲ
モヤリ文人閑士ニシテ過労ノヲメ健康
ヲ害シ今尚ホ病気ヲ為シ同紙ヨリ物
質援助ヲ受ケツヽアルガ如キモ閑士

健康故障生シタリトモ同紙ノ声價大イニ揚カリ一躍厦門報界ノ第一位ヲ占ムルニ至レリ

又十九路軍ノ入閩時ニハ同軍ノ機関紙トナリ軍、政状況ヲ機関的ニ報道シ同軍駐閩約一ヶ年餘ノ間ニ約五萬弗餘ノ補助ヲ受ケ得タルノ外等閩来時局問題ニ対シ善処シ居レリ、

現在ハ頁紙面ヲ維持シ発行部数三千餘ニ達シ泉州、漳州ノ両地ニ分社ヲ設ケ居レリ

人的陣容、物的陣容ノ整備最モ完全ニシテ又従来ノ時弊ヲ善処セル等ノ歴史ヲ有シ居ルコトガ同紙ノ声價信用第一位トシテ今日アルノ所以タリ、

約四萬弗位

内譯　土地建物　約二〇、〇〇〇弗

機械活字　約一二、〇〇〇弗

什器、未收金等額不明ナルカ相當額ニ達スル見込ニテ或ハ資本五萬弗以上ナルヤモ計ラレズ

三、

奈行部数

約三、三〇〇部

四、

系約及色彩

故人許卓然ハ閩南ニ於ケル勢力者ナリシ人的歴史ヲ有シ地域的ニハ閩南ノ内テモ泉州系ノ縁故深ク、現在創弁ノ許宗智並ニ其ノ背景タル閩南政客秦望山ニシテモ泉州一帯ヲ地盤トスルモノニシテ其ノ方面ノ支持ヲ特ニ受クルノ外満洲事変以来ノ大活動ハ全民衆ノ信用ヲ

陣ヲ全般的支持支援ヲ受ケ居ルモノト認
メラル
而シテ思想関係ヲ案スルニ秦望山等ハ
元来無政府主義共鳴者ト認ムヘキ否其
ノ主義者ナルヤモ計ラレサル者ニシテ同
主義ガ泉州ニ根強ク潜在シ居ル関係ヨ
リモ考察シ得ル処ナルガ故
江声報ノ思想的真随ハ無政府主義ニア
ラスヤト推理上ニ應當然考ヘサセラル
ル処ナルガ現在ノ処斯ル色彩ハ些レモ表
現セス
然レトモ蔣介石ノ國民党ニ対シ忠實ナル
新聞ニハ言ヒ難ク、十九路軍ノ人民革命
政府成立時ニハ專ラ之ヲ支持シ居メルモ
ノニシテ諸種歴史上現象ヲ綜合判断ス
ルニ、國民党系ノ如クシテ然ラス勿論共

產思想ニ基クモノニアラサルカ此ノ両者ノ中間即チ社会民主々義第三党色彩ノ新聞ト認定スヘキナリ、

五、分布状況

厦門	一、五〇〇部	泉州属	九〇〇部
漳州属	四〇〇部	金門	八〇部
南洋	一〇〇部	其ノ他	

六、所在地

厦門市思明南路四七〇號

七、社長、主筆、主事

總経理（社長）許栄智（叔父許卓然ノ有力者タリシ関係ヨリ名望アリ）

編輯（主筆）李哲民

営業主任　許栄智

八、経営状況

厦門報界ニ於ケル第一位者トシテ創刊

歴史ノ永キコト、満洲事変當時ノ活動ニ
見ルヘキモノアリ又経営者タル許榮智ハ
閩南ニ有力者トシテ聞ヘ高カリシ許卓
然トノ関係アリ現ニ閩南政客トシテ許
卓然ノ幕下タル秦望山カ現ニ其ノ背景
トナリ居リ又一面思想的ニモ或ハ背景ア
リヤニ見受ケラレ十九路軍當時ニ補助金
約五萬弗ヲセレメタルコトハ兩来赤字

ノ同紙ニ活ヲ入レタルヤノ観アリ最近
約二萬弗ヲ以テ社屋ヲ新築スル等或ハ
泉州、漳州ニ分社ヲ開設スル等
讀者ノ構成ハ閩南ハ勿論閩西竟ニ一
部ニ及ヒ居ル等又情報網ニシテモ閩南
閩西閩北ニ在リ、電話、電信、航空等ノ
各快電郵ヲ以テ通信シ居ル等各機構
ハ相當整備シ居リ機械ハ輪転機ヲ設備

中ニ在ルノ外活字モ亦整備シ居レリ。

社内人事関係ニ新築ノ社屋ニ社員、職工、配達夫等ヲ寄宿セシメ起居動静ニ遺憾ナキヲ期シツヽアリ、

斯クテ現在同社ノ收支関係ヲ見ルニ自力ニヨリ独立独歩スルニ至ラス尚赤字会計ハ免レ難ク只諸問題ニ介在ス

入レ言論新聞ノ偉力ヲ示シ之レニヨリ或ハ相當纏リタルル收入ヲ謀ルヤノ疑多分ニ在ルノ外秦望山等ノ援助ノアルコトモ認メ得ル処ニシテ厦門報界第一位ヲ誇ルト雖モ尚補助援助ヲ仰クニ非ラサレハ経営不能ノ状態ニ在リ。

次ニ記事編輯方面ヲ案スルニ華僑報ノ自由解放的ナル編輯振リニ反シ江

声報ハ各記事編輯ニ當リ常ニ同紙個
有独有独特ノ私見カ介入シ居リ殊ニ
時事問題ニ関シテハ独創的見解ノ色
彩多ク殊ニ対日本問題ニ関シテハ其
ノ疑多分ト亦其ノ事實モアリ、而シ
テ同紙ハ情報網ノ拡キタメ報道記
事モ價値ノ如何ニ拘ラス相當他紙ニ
比シ多キコトガ特主トス華僑報ノ記

事撰擇ニ比シ江声報ハかき込ミ主義タリ、
以上ノ通リニシテ同紙ノ現在ヨリシテ将
来ヲ案スルニ華僑報ノ新興、現在的新
聞タラントスルニ反シ江声報ハ古風
的気味多分ニアリ、永キ歴史的努力
トソレヨリ得タル信用ニ依存セムトス
ルノ傾キ濃厚ニシテ此ノ勢力ハ當分
持續スルモノト認メラル、ガ他紙ノ躍

進如何ニヨリ相當ノ打撃ハ免レ難ノ
故ニ現在的新メ主ナル経営方法ヲ考
究セサルトキハ同紙モ新興他紙ニ制セ
ラル、憂アルモノト認メラル、ガ尚當
面ハ紙勢維持等ハ支障ナキモノト認
メラル

九、日支問題ニ対スル活動

前述セル如ク満洲事変時ニハ他紙ト共
ニ其ノ間特ニ忠實ナル支那紙トシテ
活動セルモノニシテ最近ニ於テハ稍
軟化セリト雖モ在廈支那紙中対日
関係記事ヲ最モ多ク報道シカモ其
ノ記事具合何ンナトナク皮肉交リノモ
ノ多ク中ニハ單ナル想像記事スラ掲
載スルコトアリ

在廈支那紙中最モ注意ヲ要スル新聞

ニレテ或ハ其ノ背景ニ英國ガ潜在
レ居ルニ非ラスヤ
記者中カニ英系ヨリ買收セラレ居ル
者アル疑ナレトモ
因ニ全面紙トハ表面至極融和ヲ裝ヒ
居ルモ記事論調斯ノ如キハ誠意ナキ
モノトレテ全面紙トシテ力メテ友誼友
情ノ增進ヲ図ルメ根気ヨク接觸ヲ續
クル等態度ノ好轉ヲ期セントレツヽア
リ、

第五回　華僑日報

一　沿革

南洋華僑タル楊元通が厦門ニ於テ新聞事業ヲ為スヘシト決心ノ上先ツ厦門ノ事情ニ精通スル要ストテ華僑銀行厦門支店ニ銀行員トシテ奉職スルコト約二ヶ年間半其ノ間厦門ノ諸般ノ状況ヲ調査研究シ

民國二十一年十月十日在厦有力者謝
鏡波、林振成等数名発起トシテ在厦
華僑ヨリ約四萬資金ヲ集メルコト、
シ不敢取二萬弗ヲ集メ得タルニヨ
リ前記双十節ヲ期シ華僑報ノ創刊
ヲ見ルニ至ル、
右株式中ニハ台湾人林滾、謝阿発等
モ各々一千弗宛ヲ出資シ居ルト何レ

モ前記華僑ト親交関係ニ基ク出資ナ
リト認メラル、
而シテ創刊以来相當ノ成績ヲ擧ケ居
ルモ依然收支償ハサルモノニシテ最近
六月十五日ヨリ華僑有力者柯孝昌
等ト同紙トノ間ニ直接関係ヲナスコ
トヽシ同紙ノ支持援助ヲ期シツヽアリ
創刊當時ヨリ八頁紙面ニテ昨年十

月十日ヨリ十二頁紙面トシ現在ニ至リ楊元通ハ創刊以来社長ノ職ニアリ如オナキ円満融和ナル同人ノ人格ハ其ノ手腕ト共ニ同紙存續ノ生命トナリ居リ今後ノ発展ヲ豫想セラルヽ点モアリ。

二、資本

約八千弗位。

内譯、機械活字　約五、〇〇〇弗

什器、未收金等　三、〇〇〇弗

創立當時四萬弗ノ資金ナルモ二万七千弗ヲ徴收シ右八千弗ヲ残ル外ハ全部ハ消失シ尚家賃滞納等約二千弗ニ達シ居ルモノナリ。

三、発行部数

約九五〇部

四、系統及色彩

創刊當時ヨリ在廈有力華僑並ニソレ
ト関連スル廈門海軍トノ関係ヲ有シ
社長楊元通ハ華僑公会ノ常務委員
ニシテ結局同紙ハ華僑ヲ背景トシテ
依存シ居ルモノトリ、
色彩トシテ特ニ鮮明ナルコトナク廈
門ニ関係深キ海軍並ニ之レト歴史的ニ

廈門建設ニ奔走セル廈門ノ有力者等
ノ意図ノ間ニ依存シ海軍存シ、華僑之
レト関係深キ限リ他省人中央南京ヨ
リノ進出ヨリモ在現地人ノ指頭ヲ期待
シ居ルモノト認メラルル、
思想的ニハ左右何レニモ偏セズ寧ロ解
放的ニ自由ナル論調「有リノ侭」
報道ノ傾向アリ江声報ノ如ク策略的

或ハ技工ヲ用ヒサルヲ通常トス、

五、分布状況

厦門　五〇〇部　泉州属　一〇〇部

漳州属　一五〇部　南洋　二〇〇部

六、所在地

厦門市中山路二五三號

七、社長、主筆、主事

社長　楊元通（華僑公会常務委員）

編輯（主筆格）　陳雨立

営業主任　柯孝昌（元中南銀行経理ニシテ資産家）

八、営業状況

営業要領ハ社長楊元通ハ如才ナキ人物ニシテ各方面トモ融和ノ實ヲ揚ケ居ル関係ハ同紙経営ニ卑益スル所大ナルモノアリ、

然レトモ各株主ハ總額四萬弗ノ二萬七千
弗丈ケ拂込ミ殘リ一萬三千弗ハ未拂ト
ナレ居リ
業績收支相償ハス大赤字会計ニテ家賃不
拂ノタメ（約二千弗）目下訴訟沙汰ヲ演
レ居リ最近現所在ニ移轉シ来レルモノ
ニシテ営業政策上現在所ハ頗ル適當ノ
場所ニシテ経済難ニ対スル方策トシテ

六月十五日ヨリ有力資產家柯孝昌ヲ
同紙ニ関係セシメ経理職ノ如キモノヲ
兼ヘ居ルカ華僑報ノ苦境対策ノタメ
ナラント認メラル
斯クテ社長楊元通ハ経営上ニ真面目
ナル努力ト奮闘ヲ續ケ居ルモノト認
メラル
次ニ編輯関係ヲ見ルニ在廈各紙中編輯

術ニ最モ長シ且ツ常ニ工夫考案ヲ怠ラ
サルモノニシテ時事諸問題ニ対スル報道
ハ極メテ解放的ニ報道シ殊更策ヲ弄
シ権謀術策ノ所為ナキヲ常トス
斯クテ同紙ノ現状ヨリ将来ヲ案スルニ経
営方法ニシテモ編輯要領ニシテモ又社
長楊元通ノ活動振リト奮闘振リヨリス
ルトキハ将来相当有望視スルニ足ルモノト
認メラル
只其ノ歴史ノ短キコト、社長ガ社内経
理関係ヲ兄弟親戚ニテ独専シ居ルコト、
ガ同社、中枢社員間ニ不平トナリ居ルコ
トガ経営上ノ障碍ナラン
九、日支問題ニ対スル活動
矢張リ支那紙ナルガ故又財政難ナルガ
故、独自個有ノ持論アルコトナク忠実ナ

ル支那紙ニシテ満洲事変當時江声報
ニ次キ大活動ヲナシ居タルモノタリ。
最近対日態度相當軟化シ日本機関紙
全閩新日報トニユース交換ノ實行ヲ為
スニ至リ同業関係ヨリノ親交ヲ希望シ居
ルモノナリ、勿論報界各紙ノ猛烈ナル競
争ヲ豫想セラレテノ対策トシテノ提携
トモ思料セラルヽガ日本ト大イニ意思

疎通ヲ謀リツヽアリ
然レトモ根本ニ於テ支那紙ナルガ故ト
編輯ガ自由解放的ナル点ヨリ記事
資料ヲ底意モナク掲載発表スルコト
アリ
註、日本海軍ト多少関係アリト認メラル
ル点アリ。

第三目　思明商學日報

一、沿革

民國十二年廈門學界ノ人、徐振亜、黄篤爽等合資ニテ思明報ヲ発刊ス、其ノ後民國十八年ニ至リ其ノ経営愈々困難トナリ徐、黄等ハ同紙トノ関係ヲ断ツニ至リ林廷棟、黄壽源等八名ニテ董事会ヲ組織シ資金ノ調達ヲ為シ爾面ヲ

支持シ林廷棟之レガ経営ノ掌ニ當リ形勢ノ挽回ニ努力シ居タルガ依然難関ノ域ヲ脱スル能ハス

折柄民國二十二年十九路軍駐閩ノ時、同軍々人ガ同安縣ニ於テ民間ヨリ收賄レタルコトヲ記事トシテ發表シタルタメ十九路軍ヨリ封鎖サレ林廷棟、陳沙崙等責任者ハ逮捕令ヲ恐レテ台湾ニ逃レ居タルガ

人民政府ノ倒壊後厦ヲ各方面ニ運動ノ結果漸ク利スルコトヽナリ有力高人洪某ヨリ三、四千弗ノ援助ヲ受ケ高面ヲ打開シタルモ経済依然困難ノ域ヲ脱スル能ハス、

折柄厦門商会委員等ニヨリ創刊ニ係ル日刊紙商學日報モ亦同様経営難ニ陥リ居タルタメ両社ノ合併問題起リ民

國二十二年七月両社合併シ思明商學日報
トシテ林廷棟経営ノ當リ今日ニ至ル
合併當時ノ同紙ハ声價皆無ナリシガ最
近漸ク商会方面ヲ通シ一般ニ認メラル
ルニ至レルガ経済依然困難ノ状態ニ在
リ、現在八頁紙面ヲ維持シ居ルモノナリ.

二、資本

約八千弗位

肉譯 機械活字約 五、〇〇〇弗
什器未收金約 三、〇〇〇弗

註、相當負債アルモ見込ミナリ.

三、発行部数

約八五〇部

四、系統及色彩

経営者林廷棟ハ元思明報ノ集金人タリ
シガ不物ナル点ヨリ今日ノ地位ヲ得タ

ルモノナルガ最早小成ニ安ンセルノ
感アリ、商學日報ガ商会委員ノ創弁
タリシ関係ヨリ、商会方面ト言フヨリ
モ一般商人向キ新聞トモ認メラレ其
ノ点高人側ヨリ稍々支持ヲ受クルモ
林廷棟ノ人物大ナル背景ヲ得ントスルガ
如キコトモナク八方拝ミ倒シテ同情ヲ
許フルノ形態ニアリ、

商会商人ガ背景トイ言フモノヽ大シタコ
トナク全面的ニ同情哀願ニヨリ維持シ
居ルモノニシテ
思想色彩トシテハ收入トナレバ何ニ
リトモ敢行スルノ傾向濃厚ニシテ同紙
個有ノ思想ト色彩アルコトナシ、只社
員記者中ニハ尤傾的人物ノ介在乃至ハ
真種方面ノ策動ニ乗セラルヽコトア

五、分布状況

厦門　六〇〇部
漳州屬　五〇部
泉州屬　一五〇部
其ノ他　南洋　二〇部

六、所在地

厦門市中山路九一號

七、社長、主筆、主事、

社長　林廷棟（社会的格十レ）
編輯（主筆格）　鄭永輝

八、営業状況

営業主任　林廷棟

収支償ハサルモ甚タシクアラス記者等ハ自己募集ノ広告料ヲ俸給代リトシテ私收入ニ任意ニ集金ニ至リ社トシテハ俸給不拂三ケ月ニ及フモ

収入ノ途ヘ正當収入ノ斷絶ノ状態ニ在リ、
殊ニ最近ハ更紙負紙購入ニモ支障ヲ来
シ居ルノ實状ニ在リ、
其ノ負因スル処ハ社長林廷棟ハ私的遊
興ノ程度ヲ越ヘ、ダンスホールニ入リビタ
リ社務ヲ顧ミサルタメ社内編輯記者
其ノ他職員ハ社長派ト編輯鄭永輝ト
モ見ラルベキ分派モ社内統制ヲ欠キ

居ルタメ殊ニ最近一、二ヶ月間ニハ着シ
ク社内規律ト記事面ガ乱調的トナリ
真面目真剣味ヲ失ヒ、今ヤ厦門商報ノ
前轍ヲ踏マムトスルノ傾向ニ在リ、社
長林廷棟ハ在地商人方面ヲ駆ケ廻リ金
策ニ腐心怠慢ナルモ同社ノ現状
ヨリセバ全主背景ノ聲見ハ至難ノ状態
ニ在リ、

一方編輯方面ハ現社長ノ身持行状ニ不平
満々タルノ實状ニ在リ、為スヘキ編輯モ
頗ル疎畧的ト十リ紙面緊張ハ消失セル
ノ實状ニ在リ、
斯クテ同紙ノ現在ヨリ将来ヲ案スルニ
社長以下ノ緊張ト人的機構ノ統制ニ面
目ヲ一新セサル限リ同紙ノ運命ハ日一日ト
衰落スルモノト想メラレ各紙トノ競争

関係ヨリシテ最早立チ射チ不能ノ運命
ニ陥ルニ非スヤト推測セラル
日支問題ニ対スル活動
支那紙十ルカ故満洲事変當時ハ忠實
ニ排日記事掲載ヲ為シ且ツ極ク最近
迄同様十リシカ最近同紙ノ社長及編輯
ハ全国紙ト特ニ友好関係ヲ生シ居リ好
キ好ンデ排日記事ヲ掲載スルカ如キコ

トナク、萬一掲載セルトシテモ全閩社ヨリノ要求アルトキハ許ス範囲ニ於テ掲載スベシノ記事ニ対シ訂正ノ意味ノ消息ヲ掲載スルニ至ル故ニ現在ノ処差シテ対日態度悪シカラサルモノナリ

第四目　厦門商報

一、沿革

金閩新日報ガ善隣協会ノ支持スルニ至ルヤ全閩新日報ノ経理タル台湾人江薀和ハ隊メ厦門ニ商報ナル日刊紙ヲ発刊スベシト計画シ民國十年末頃江薀和ハ題號ヲ商報トシテ発刊シ當時商会方面ノ有力者ノ支援ニ基キ経営セルモ當

時全閩紙、江声、民鐘、厦声等ノ各紙ニ
伍レ辛フレテ経営レ居メルガ民国十四
年頃愈々経営困難ニ陥リメルガ國民党
北伐軍ノ入閩時ニ陸戦隊林寿國（旅長）ノ
援助ヲ受ケ稍々経営レ易キニ至レルモ同
紙ノ声價大イニ落伍ノ傾向ヲ辿リ江蘊和
遂ニ関係ヲ断チ、民國十六年ヨリ元全
閩新日報関係ノ厦門人傳貴中之レニ
代リテ経営レ當時在厦台湾人ヨリ支
援スル者アリテ多少ノ成績ヲ擧ケ得
メルモ民國十八年頃ヨリ更ニ経営難ニ
陥リタメニ時ニハタメ刊新聞トスルコト
モアリレガ成績振ハス題號夜報ト改
稱スル等ナレ居メルカ民國二十三年夏
傳貴中ハ経営難ノタメ関係ヲ断チ
厦門人林綢青、邵明堂等支持レ居

メルが約三ケ月ニシテ経営不可能ト
ナリ停版シ居メルガ厦門人陳極星之
レヲ引受ケ厦門商報トシテ発刊ヲ為
スニ至レルガ成績依然不良ニシテ経
済又困難ニテ停版スルコト屢々アリ
在厦日刊紙中最下流ノ落伍新聞タ
リ現在四頁紙面ヲ維持ス

二、資本

約三千弗位
内譯、機械活字其ノ他一切ノ合計トス
註、相當負債アルモ省ク

三、発行部数

約三五〇部

四、系統及色彩

思明商學日報ヲ更ニ縮少低下シメル
カ如キモノニシテ系統色彩トシテ論

スルニ足ラサルモノトス

五、分布状況

厦門三五ノ新、其ノ他十レ

六、所在地

厦門市中華路農朝巷、勵徳学校内

七、社長、主筆、主事

総経理（社長）陳種星（厦門市商会委員）

副経理（副社長）洪添登（商界有力者）

編輯（主筆格）陳聖天（格十レ、思想容疑者）

営業主任　陳種星

八、経営状況

運転資金欠乏シ華僑資産家ノ引キ入レニ苦心奔走シ居ルモ最近ハ其種資金背景発見ニ其ノ成績思ハシカラス

加フルニ記事ト内容等モ最早日刊紙トシテノ價値ヲ失ヒ全部紙、江声報等ノ出

版後他紙ノ記事ヲ切抜キ之レニヨリ編
輯ナシ居リタメニ配達ノ如キモ他紙ハ
午前七時ナルモ厦門商報ハ正午以後ト
ナリ居ル等
斯クテ休刊スルコト屢々アリ本月ヨリ
ハ八頁紙面ヲ四頁トスルノ状態ニ在リ
結局厦門商報ハ営業的ニ経業上ヨリ
スルモ既ニ落伍シ編輯方面ヨリスルモ

是亦落伍シ最早日刊紙トシテ論スル
ノ價値ナキニ至リ声價地ニ墜チ江声
全閩、華僑ノ各紙ノ充實発展ト共ニ同
紙ハ日一日ト衰落ノ一途ヲタドルノミ
同紙ノ現在ヨリ将来ヲ案スルトキハ最
早形勢挽回ノ見込ミ薄ニテ結局没落
廃刊ノ運命ニアルモノト豫想セラル、
日支問題ニ対スル活動

勿論支那紙ナルガ故又経済難ナルガ為
日支時事諸問題ニ対シテハ自力持論確
固メルモノアルコトナク営業政策上ヨ
リ財政難ハ他力本願トナリ大衆ノ気
息ヲ窺フヲ要スルガ如何ニ対
シテハ理否ノ如何ヲ問ハス忠實ナル
支那紙トシテ自國権護ノ筆法ハ免レ
難カルヘシ

只同紙ガ力量ナキタメ其ノ論スル処
アルトシテモ問題視スルノ必要ナキ
モノナリ

殊ニ経済難ノ同紙ハ日本側トシテハ如
何様ニモ利用シ得ルモノト信セサルヲ
事實上利用シ得ルモノナリ

第五目　星光日報

「祭刊計画着々進行中　創刊號ハ八月一日の」

一　沿革

南洋華僑成金ニシテ数千萬弗ノ資産ヲ有スル萬金油藥商人胡文虎ガ南洋汕頭等ニテ新聞業ヲ経営シ今回厦門ニ於テ新タニ祭行スヘノ計画中ニシテ来

ル八月一日頃創刊號ヲ見ル豫定

二、資本

拾萬弗

三、発行部数

未定、但一部十二頁モノナリト

四、系統及色彩

國民党系ノモノト認定

五、分布状況

未定ナルモ大資本ノ仕事ニシテ創刊三ケ月間ハ無料配付ヲナスト

六、所在地

厦門市中山路二二四號

七、社長、主筆、主事

社長 頼文清（元恩明縣党部常務委員）

主筆 黄陸萍（南京中央党部ノ秘密情報員）

以上ノ如ク決定ヲ見ツヽアリ

八、豫想経営状況

大資本家ノ仕事ニシテ全銭ハ問題外

国民党機関紙トシテ奉仕的大活動ヲ豫想セラル

九、現在各新聞ハ本紙ノ出現ヲ一大恐威トシテ注目シ且ツ対策ヲ考究シツヽアリ

日支問題ニ対スル活動豫想

系統色彩ヨリシテ相當注目ヲ要スルモノト認ム、

ノ有無ニ注意ヲ要スルモノト認ム、

殊ニ華僑ナル点ヨリシテ英、米背景

ト認定セラル

因ニ主筆黄陸萍ハ元全閩新日報ニ勤務セルコトアル者ヲリ、故ニ派遣員等モ知己関係ニテ来往関係ヲ頻繁ニセムトス

第六日　廈門讀賣新聞

「発行ノ計画ニ商議中　八月頃発行予定」

「六月二十四日ノ間込」

一、治革

魚産魚職ノインチキ青年等ガ約一ヶ月前ヨリ讀賣週刊新聞ヲ三回程発行シ居タルガインチキ策士青年等八人ヲ誘フニ妙枝アリ六月二十三日ヨリ駐閩中央軍

関係ノ有力者徐瑞霖、張傑仲、呉雲川、陳
鉄卿等ノ出動ヲ促シ
右週刊ヲ日刊紙トスルコトニ決定ス六月二十
四日ヨリト
其ノ他尚不明ナルガ台湾人青年モ介入セム
トスルヤノ風説アリ、

第七日　小新聞各種
左記小新聞各種ハ言論機関トシテ厦門民
情ヲ左右スルガ如キ威力ヲ有セス
何レモ創刊日浅ク廣告料集金アルトキ
ハ発行シ集金ナキトキハ休刊シ発行一
定セス、
御参考迄

左記

一、毎日新聞　支那人経営（一台人ニ介入ノ疑アリ）
二、廈門婦女報　支那人経営
三、廈門讀賣新聞　支那人及台人ノ合弁
四、兒童日報（休刊中）　支那人経営
五、廈門夜報　支那人経営

第三節　外字新聞

第一目　遠東商業日報

一、沿革

二、前提

本紙創刊ニ至レル理由ノ一ツトシテ福建タイムス、南華新聞ナル米系英字新聞ノ創刊（現在ハ廃刊ス）ニ関聯シ居ルモノニシテ英國系トシテ創刊ヲ見

ルニ至レルモノナリ

民國二十二年七月頃米系ノ外字紙福建タイムスノ創刊アリ今二十三年夏發刊トナリ之レト前後シテ米系ノ外字紙南華新聞ノ創刊アリ何レモ米國籍フイリツピン人ノ創刊ニ係ルモノナルカ日本領事等ハ同紙ト親交ハ勿論相當ノ物質援助ヲナシ

註、當時日本領事ハ頻リト英字新聞誌ヲ提唱シ全閩紙ニモ英字欄ヲ設クル必要アリト英文英語萬能説ヲ唱ヘ居タル如ク見受ラル

居タルカ

排日英人羅伯智（譯音）ハ英當局ノ意圖ヲ奉シ昨年七月先ツ右ニ對抗スヘク？英字紙遠東商業日報ヲ創刊シ在廈英

人ノ言論機関トスルニ至レリ

二、資本金
約三千弗

三、發行部数
約二、〇〇〇部

四、系統及色彩
純英國系ノモノニシテ在廈英勢力維持ノ
タメノ言論機関タリ而シテ眞意ハ排日タリ

五、分布状況
在廈英人及英籍民、廈門大學其ノ他外
人方面ヘ

六、所在地
廈門市中山路門牌自一四六
英商大華飯店内至一五〇 號
（高層大建築物タリ）

七、社長、主筆、主事
社長、英人、羅伯智、廈門大學教授、大華飯店関
係者、競賣營業関係者

ノ編輯 支人、黄世昌、 英系、復門國貨大商場
経理ノ 黄世昌 経営関係者

八、経営状況

在留英人英商ヨリ毎月約二百弗近クノ廣
告料ヲ収入トナシ居リ外ニ英當局ヨリモ
補助ヲ受ケ居ルモノト認メラル
最近復門國貨大商場ヲ英皇即位二十五
週年祝賀ニ関聯シ右商場開催ヲ支持シ
居タル処在復漢字新聞ヨリ總攻撃ヲ受
ケ商場ハ開業シタルモ頻ル不人氣ニテ相
當ノ損失ヲ續ケ之レカタメ同紙モ損失影
響ヲ受ケ約一ケ月餘休刊スルノ已ムナキ
窮状ニ陥リ居タルカ何処ヨリカ資金融
通ナリテカ六月二十四日ヨリ發刊ヲ見ルニ
至レルカ勿論経営ハ困難ニシテ損仕事
タリ、

九、日支問題ニ對スル活動

社長ハ猛烈ナル排日英人ナルカ該紙ハ力メテ英國ノ宣傳、支持ノ言論機関使命ヲ有シ居リ其ノ間間接ニ反日新聞タリ然レトモ厦門ニ於テ斯ル英字新聞ハ到底漢字紙ノ勢力ニ及ハサルモ甚タシク論スルニ價値ナキ新聞多之レヲ感覺シタルカ最経営者側ニ於テモ之レヲ感覺シタルカ最近黄世昌ハ漢字新聞發行ノ計画ヲ為シ居ルヤニ聞知ス

第四節　新聞政策ノ功過並ニ將来方針

功績

一、日本中國其ノ他各國ノ現状ヲ正認セシメ併セテ國際的関係ニ於ケル自他ノ存在状態ヲ認識セシメ居ルコト

他國ヲ夷、自國ヲ中華ト自誇自稱スル自負心ハ漢民族傳統的ノ心理ニシテ只ニ國稱ノミナラス其他總テニ於テ然リ　故ニ自稱

カ空嘘ニシテ其ノ根底ト本質ニ欠クルコト
アリトセヌモ自顧スルコトナク甚タシキハ本
末顛倒スルコトモ勘カサルヲ例トス所謂宣
傳即チ逆宣傳之ナリ
之等ハ過度期ノ諸般状態綜合ニヨル國家ト
シテ免カレ難シト雖モ前述ノ心理ニ関スル
モノトモ言フベキナリ
而シテ本末ヲ顛倒シタル逆事態ノ儘全國

民又ハ地方民衆カ動ク処ニ支那ノ現状ト正
体ヲ見出シ得ル隣邦日本帝國トシテハ殊
ニ排外、排日ヲ救國ナリトシテ領導セムトス
ルニ於テハ日本帝國トシテハ最小限度之シ
カ防止ノ策ヲ講シ最大限我カ方ノ意圖ニ
據ラシメストモ識ラシメル丈ノ必要アリ
由來中國ニ對スルニハ硬化的鉄拳本位ノ
接渉ニヨルニ非ラサレハ奏効セストハ眞理ヲ

穿チタル説ナリト虽モ其ノ先駆トシテ爲ス
スヘキ工作ハ即チ『言論機関ヲ通シテ啓
蒙ヨリ指導ヘ』而シテ日本中國及第三諸
國ノ現状ト正体ヲ認識セシムルコトカ隣邦日
本トシテトルベキ最モ肝要ナルコトニシテ全
閩紙カ日常讀者大衆（茲ニ言フ讀者トハ部
数讀者ニアラス即チ全閩紙一部ニ對シ之
レヲ讀ム者十五名以上ト算定シ得ヘク故
ニ一萬五千名又ハ二萬人タリ）ニ向ケ毎日紙
面ヲ通シ演説放送ナシ居ルモノニシテ之
レニ依リ日本、中國及第三諸國ノ状態ヲ
識ラシメツヽアルコトハ疑モナキ事實ニシ
テ其ノ事實ト効果ハ引例具体的説明
ヲナスノ煩ニ堪ヘサルカ閩南民衆カ日本
ト中國トヲ比較對照認識シ而シテ日本ノ
統治下ニ入ルカ幸福ナリトスル通有的民情

現象ニ對シテハ新聞紙トシテ平素不斷ニ致セル処尠カラスト確信ス

二、地方時事問題ニ對スル功績

墮落シ世ヲ毒スルヲ奇異トセサル支那紙ニ比シ高潔崇高ノ理想ト趣旨下ニ報道使命ヲ遂行スル全閩紙ノ記事ハ懲悪勸善而シテ時事問題ニ對スル正解ト眞相報道紙タルコトニ於テ記事偉力大ナルダケアリテ最近支那當局カ或ル工作ヲ為サムトスルニ際シ全閩ニ論評ヲ依頼ナシ来ルノ實例或ハ金融危局ニ在ル當業者カ特ニ全閩紙ニヨリ論評ヲ依頼ナシ来ル等時事重要問題ニ對シテハ少クトモ全閩紙ノ記事ニ據ラントスル点偉力ノ運用正シキハ社會ニ一大貢献ト言ヒ得ルニ非ラサルヤ

三、権益擁護ノ功績

日本帝國トシテ殊ニ現地ノ出先官憲當局並
ニ居留民ニシテ甚タ不利ニ陥ル場合多ク此ノ
場合或ハ之等ニ類似スル場合ニ於テ全閩紙ノ
特徴トスル機関的行動ニヨリ爾来其ノ致セ
ル功績頗ル大ニシテ枚擧ニ遑ナシト言フモ
過言ニ非ラサルヘシ
故ニ當局(現地ノ)及居留民ニシテ全閩紙ニ
信頼シ居ルノ所以又茲ニ有リ

四、國際的ニ列強干渉監視ノ功績

列強ニシテ國際都市厦門ヲ足場トシテ帝
國ノ最モ関心干渉ヲ有スル福建ニ勢力
侵入ヲ策スルニ對シ全閩紙ノ報道機能ノ
發揮ニヨリ何等カノ氣運造成ニヨリ致セ
ル功績ノアルコトハ否定スル能ハサルヘシ

以上ノ四点ハ其ノ重ナル要点ヲ述ベタルモ
ノナルカ斯クテ帝國ノ期待スル日支親善

ノ實ヲ擧クルニ貢献シ居ルモノニシテ
若シ全閣紙ナカリセハ如何トノ点ニ想到ス
ルトキハ其処一大不便否不安ノ襲来ヲ豫
想セラレ居留民大衆モ支那紙ノ領導下
ニ在ラシメ其ノ向フ処ヲ誤ラシムル虞アルコ
トハ言ヲ俟タサルベシ

過

新聞紙ノ偉力大ナル反面運用誤ルトキハ
其ノ反响過トシテ又大ナルヘク而シテ過ヲ分
チテ公的ト私的ニ、其ノ何レモ責ハ社名ニ
於テ又ハ関係當局者ニ於テ負責セサルヘ
カラザル如クナルヲ常トス
斯クテ過去ニ於テ如何ナル過ヲ為シタル
ヤノ点ヲ案スルニ

全閩社トシテハ其ノ使命ノ次第モアル関係上萬事愼重ナル取扱ヲ爲シ居ルカ時ニハ支那側ヨリ所謂抗議ナルモノノアル場合ナシトセサルモ此ハ當初ニ於テ當然予想セラレ居ルコトニシテ敢テ問題視スルノ必要ナク殊ニ抗議ト虽モ其ノ多ク「御願」ニ外ナラサルヘク何等意ニ介スル必要ナキコトナリ即チ使命遂行ニ對スル反响之レ抗議タリ或ハ御願タリ

勿論徒ラニ抗議事態ヲ殊更誘發スルカ如キコトハ愼シムヘキナルモ全閩社トシテ未タ派遣員ノ知ル範囲ニ斯ルコトアルヲ知ラス

飜ツテ支那紙ヲ見ルニ日本側トシテ支那式ノ抗議ヲ爲ストセハ殆ント連續的ニ抗議ヲ要スル状態ノ常有スルコトヲ認識

スルトキハ日本紙ハ正規的發動以外ニ乱調的行動ハ断シテナキコトヲ断言シ得ヘシ然レトモ過去ニ於テ創弁者カ又関係者カ私的関係ヨリ自制ト自律ヲ怠リ對外部関係ヲ好マシカラサルニ至ラシメタルカ如キ事例ハ多少アルニ非スヤト思料セラルルカ即チ新聞僻カノ悪用ニシテ斯ルコトハ甚タ遺憾トスルカ勿論全閨社意ニアラサル私意ニ基クモノナルカ負責系統上矢張リ過ノ一種ト看做シ得ル点ヲ遺憾トスルモ勿論多カラサルコトニシテ或ル期間的ノモノタリシヤニ信セラル

188

尚経営方針上ト言フヨリ現地當局ノ執政者ノ過去ニ於テ徒ラニ居留民権益保護ヲ無分別ニ為シタル関係上全閨紙モ之ニ習ヒ居留民ノ動向ヲ誤ラシメタルノ感アリ即チ勧

善ハ勿論可トスルカ居留民ノ悪ヲ悪トセズ
盲目的ニ保護ノミニ盲進シタル結果正當勢
力ノ扶殖充實發展以外ノ不正當勢力ヲ不正
方面ヘ向ハシメタルコトノ責頗ル大ナルモノアリ
勿論其ノ責ハ全閣紙ノミニ非ラス正ニ當局ノ責
ニモ任スヘキナリト雖モ甚タ遺憾ニシテ居留
民ノ誘導上大イニ心スヘキコトナリ
次ニ最近國民党藍衣社ニ於テ全閣紙ヲ云爲
スルヤニ聞知スルカ何レモ故意ニ出スル所爲
タルニ於テハ何等意ニ介スルニ足ラサルヘク
故ニ之等ハ過ト看做スハ妥當ナラサルヘシ

將來方針

一、存廢問題

將來方針ヲ案スルニ先ツ前提トシテ存廢
問題ヲ決スル必要アリ
過般上海ノ總領事會議ニ漢字紙廢刊問

題ヲ提案セル者アルヤニ聞知スルカ同案ハ
否決ニ終リタル由ナルカ仰モ提案者ハ如何
ナル理由ノ下ニ提案セルヤ知ルニ由ナキモ其
ノ眞意ノ那辺ニ在ルヤ解シ難ク
若シ斯ル主張者アリトセハ浅見ナカラ派
遣員ハ断然反對スル明理且ツ事實問題
ヲ例示シ之ニ答ヘ存續ヲ主張セムトス
要ハ領事館等ハ今少シ新聞ヲ理解シ外交

的其ノ他ニ利用スル様心掛クヘキナリ
殊ニ廢刊案ヲ提案スル者ニ於テ特ニ然リ
今コソ閩報トカ全閩紙ハ福州履門ニ當
然アルモノトシテ歴史的存置トナリ居ルカ
現在新タニ創弁セムトスルトキハ在支各
界ノ注目乃至ハ反對(排日份子ノ)ヲ受ケル
カ如キコトアルヤモ計ラレス其ノ点両社ノ
存在ハ歴史的且慣例的トナリ何等差支